

令和5年度事業報告

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

新型コロナは、世界保健機関がパンデミックと認定（令和2年3月12日）してから3年が経過した令和5年5月に、国の感染症法上の位置づけがインフルエンザなどと同じ「5類」に移行となり、アフターコロナへの動きが加速している。

こうした中、当協会では、これまで人数制限等の感染防止対策を講じながら実施してきた県畜産共進会や各種会議、研修会などの行事を通常どおり開催した。中でも、令和7年10月に北海道で実施される全日本ホルスタイン共進会への出品対策の一環として、令和5年9月に開催した県畜産共進会（乳牛）では、当日猛暑にも関わらず、乳牛も人も多数参加し大いに盛り上がりを見せた。

令和2年度から始まった生産基盤拡大加速化事業（増頭1頭当たり24.6千円交付等）は令和5年度で終了となり、この4年間で実419戸の農家が参加し、導入頭数は1,875頭を数えた。同じく繁殖雌牛の増頭を目的とした肉用牛経営安定対策補完事業・中核的担い手育成増頭推進の導入頭数298頭を合わせると2,173頭で、特に、加速化事業が繁殖農家の増頭意欲を喚起した結果となった。

また、東北生乳販売農業協同組合連合会からの業務委託契約に基づいて平成19年から実施してきた生乳検査事業が実質令和4年度末で終了となったことに伴い、当協会では、今後の業務及び収益改善等を図る必要があることから対策を講じた。特に、当協会が取り扱う県内の牛及び豚のワクチン接種率が低下している現状等鑑み、家畜伝染性疾病の発生予防を図るため、ワクチン接種率の向上を目指し、家畜衛生思想の普及啓発を強化した。加えて、県内の肉用牛農家の意向等踏まえ、家畜改良事業団や県内農協などの関係機関、団体等と断続的に協議を進めながら、次年度からの肉用牛ゲノミック評価窓口業務の開始に向けて計画的に準備を行った。

畜産経営を取り巻く環境としては、令和4年以降、ウクライナ情勢が長期化し、円安基調等も相まって、飼料や燃料、光熱費などが軒並み上昇し、輸入依存の危うさが浮き彫りとなっている。特に、黒毛和種繁殖農家では、子牛価格が50万円台と下落しているほか、酪農家の離農が進んでいるなど、畜産経営を取り巻く情勢は依然、厳しい状況が続いている。

このように、畜産経営については、先行きに不透明感を増す状況となっており、当協会には、今後一層、畜産農家のニーズへの的確な対応が求められている。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 5 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- 6 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 7 第16回全日本ホルスタイン共進会出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業1

畜産振興を目的として、経営の改善・生産技術の向上、経営体の育成、家畜改良の推進、家畜衛生の向上及び畜産物の安全確保、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,032千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施

① 経営診断に基づく改善指導 8件

② 経営管理技術指導 35件

③ 生産技術指導 84件

④ フォローアップ指導 44件

(イ) 地域セミナーの開催 4回

ウ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,959千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 21回(延べ)

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 1回、7戸

(イ) 達成指導 36回、35戸

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、55戸(前年度対比5戸減)

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検及び調査

52戸(前年度対比3戸減)

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：42,240千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

・ 経営診断指導 171戸、地域セミナー4回

- ・ 乳質改善指導 308戸（ミルクシステム診断に併せて実施）
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等
- イ 地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資する事業
 - ・ 県域及び地域の家畜共進会等支援 28地域
 - ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）
- ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業
 - ・ 競馬場（盛岡）における畜産フェア 畜産物加工品配布 200人分
 - ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
 - ・ 地方競馬ミルクウィーク開催 県内乳製品配布 300個
 - ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（大野ミルク工房特選セット）授与 1回

（4）畜産経営技術指導事業（生産技術情報提供事業）

[中畜請負：445千円]

家畜の生産技術指導に資する情報を整備するため、家畜の生産・出荷成績等のデータ収集及び分析に基づく助言指導を行った。

- ・ 酪農経営 3戸
- ・ 肉用牛経営（繁殖） 2戸

（5）ミルクシステム診断事業

[独自：5,795千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルクシステム診断 312基（前年度対比13基減）
- ・ バルククーラー点検 299基（前年度対比14基減）

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,276千円、預かり補助金43,300千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭への奨励金 4農協、42頭（前年度対比62.7%）
- ② 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛導入等への奨励金 3農協、18頭（前年度対比56.3%）
- ③ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進 5組合
- ④ 肉用牛振興推進指導
①から③の円滑な実施のための指導等

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種の振興
 - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、10集団
 - ・ 計画出荷対策 1農協、214頭

- ② 山振地域における肉用牛振興
優良子牛適正出荷推進 1農協、2,432頭
- ③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導
①から②の円滑な実施のための指導等

(7) 肉用牛経営安定対策補完事業（強化哺乳技術を活用した早期出荷支援）

[機構補助：647千円、預かり補助金378千円]

肉用子牛の発育向上及び早期出荷を図るため、強化哺乳技術を活用した子牛生産の取組を支援した。

- ア 早期出荷支援対策
早期出荷の取組に対する奨励金 3農協、63頭
- イ 推進会議 1回

(8) 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）

[全肉振委託：5,366千円]

優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るため、本県の窓口団体としての事務を行った。

- ア 対象 13取組主体（90戸）
- イ 奨励金交付頭数及び金額 298頭、69,190千円
- ウ 推進会議 3回

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(9) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：3,148千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

- ア 対象 8か所の畜産クラスター協議会
 - イ 要望額 94,311千円（機械47台）
 - ウ 配分額 94,311千円（機械47台）
- } 金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

※ 配分率 100%

[主な導入機械]

機 械 名	価 格	機 械 名	価 格
選卵機	13,587千円	検卵機	4,013千円
細断型ホールクローブ収穫機	8,150千円	ハロー	3,513千円
汚卵洗浄機	7,989千円	プラウ	2,500千円
ホイールローダー	6,790千円	テッダー	1,775千円
マニュアルスプレッダー	5,500千円	カッティングロールベラー	1,725千円

- エ 機械導入状況調査（令和3年度及び令和4年度導入分）
3協議会 3台

(10) 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）

[中畜委託：221千円]

肉用牛経営及び酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等に資する機械装置の導入（リース）について、普及啓発を行った。

ア 普及対象 75か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）

イ 推進会議 1回

ウ 利用状況確認 3応援会議

(11) 酪農緊急パワーアップ事業（酪農労働省力化対策事業）

[中畜委託：759千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備について、普及啓発を行った。

ア 普及対象 75か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）

イ 推進会議 1回

ウ 利用状況確認 1応援会議

(12) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜請負：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(13) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜請負：1,040千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 13戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(14) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進）

[家畜改良事業団委託：349千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合等との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

対象 4牛群検定組合

(15) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：3,236千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

ア 優良種雄馬繁殖奨励

・ 種付奨励金 種雄馬 4頭

・ 種付頭数 23頭

・ 交付額 400千円

- イ 子馬生産奨励
 - ・ 生産奨励金 生産頭数 34頭
 - ・ 交付額 1,836千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(16) 家畜防疫互助基金支援事業

[中畜委託：4,245千円]

口蹄疫、豚熱等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

- ア 推進会議 1回
- イ 加入実績（括弧内は加入率）
 - ・ 乳用牛 568戸（78.0%）、36,228頭（90.1%）
 - ・ 肉用牛 2,510戸（73.0%）、76,159頭（85.6%）
 - ・ 豚 48戸（56.5%）、343,263頭（72.4%）

(17) 家畜防疫・衛生指導対策事業

[中畜補助：2,490千円]

地域における自衛防疫活動を推進するとともに、農場HACCP認証の取得に向けた取組を支援した。

- ア 地域自衛防疫推進
 - 推進会議 2回、防疫演習 4回
- イ 地域疾病対策
 - 慢性感染症対策 牛伝染性リンパ腫 1戸
- ウ 地域農場HACCP認証支援
 - 構築指導 3戸

(18) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：696千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

- ア 委員会等の開催 委員会 1回、講習会 2回
- イ 実態調査 73戸

(19) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：306千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

- 破傷風混合3種 42頭、馬インフルエンザ 18頭

(20) 馬防疫強化地域推進対策事業

[中畜補助：1,346千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 81頭、馬鼻肺炎 21頭

(21) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,281千円、預かり補助金9,584千円]

死亡牛の円滑かつ適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

96か月齢以上の死亡牛及び起立不能等 1,141頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(22) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,000千円、独自：960千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、全県を範囲とする岩手県畜産共進会を畜種別に開催した。

部 門	時 期	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	8月31日	54頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月 1日	64頭	同上
日 本 短 角 種	9月 5日	35頭	同上
馬	9月 7日	10頭	馬っこパーク・いわて
肉牛(黒毛和種)	11月18日	50頭	(株)いわちく

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(23) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,470千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回(奇数月)発行 1回当たり発行部数 1,350部

(24) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,275千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 107件、リース事業周知 6回

(25) 畜産技術指導促進事業

[独自：87千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。

会議等 9回

(26) 図書支援事業

[独自：310千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 288部、一般書籍 13部

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[預かり補助金：579,475千円、生産者等：249,166千円、
機構委託：13,312千円、独自：13,603千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付するなどの事務を行った。

(1) 肥育牛補填金(交付金)交付(預かり補助金・生産者等)

ア 基金造成

生産者等 249,166千円

イ 預かり補助金

機構 579,475千円

ウ 登録生産者及び負担金納付実績頭数

登録生産者数 273戸、負担金納付実績頭数 18,273頭

内訳

品 種	合 計
肉 専 用 種	9,447頭
交 雑 種	7,225頭
乳 用 種	1,601頭

エ 肥育牛安定基金造成

品種区分	生産者負担金
肉 専 用 種	103,914,821円
交 雑 種	122,836,921円
乳 用 種	22,414,279円
計	249,166,021円

※ 令和2年4月から実施された負担金納付猶予(全品種)及び同月販売分からの基金払底(肉専用種)により、基金から交付される補填金額と相殺された生産者負担金納付額を含む。

オ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額※
肉 専 用 種	8,517頭	532,430,341円
交 雑 種	6,092頭	199,978,718円
乳 用 種	1,223頭	40,225,281円
計	15,832頭	772,634,340円

※ 交付額は、農畜産業振興機構からの預かり金579,475千円を含む。

[補填金発動状況（金額は1頭当たり交付金額）]

月	肉専用種	交雑種	乳用種	月	肉専用種	交雑種	乳用種
4	-	-	45,047.7	10	97,949.7	51,198.3	-
5	37,987.2	13,933.8	45,099.0	11	22,036.5	16,210.8	-
6	45,019.8	45,225.0	32,263.2	12	-	-	6,732.9
7	67,704.3	45,701.1	37,302.3	1	14,980.5	-	15,795.9
8	141,962.4	56,643.3	32,547.6	2	25,253.1	-	18,615.6
9	132,578.1	53,065.8	-	3	49,857.3	-	35,480.7

(2) 事業推進（機構委託）

ア 会議開催、事務委託費の交付

イ 事務委託先（9団体）

全国農業協同組合連合会岩手県本部、（一社）岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、岩手花平農業協同組合

(3) 事務推進（独自）

ア 協会事務費

人件費、旅費、会議費、印刷製本費、消耗品費、消耗什器備品費、通信運搬費、租税公課等

イ 委託先事務費

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：8,801千円、独自：181,668千円]

(1) 家畜生産農場衛生対策事業

[農水省補助：8,801千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

※ 括弧内は前年度対比

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 6戸（85.7%）16頭（47.1%）

イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 37,956頭（96.6%）

ウ 牛伝染性リンパ腫対策

清浄化推進農場抗体検査 60戸1,061頭（112.0%）

エ 牛ウイルス性下痢対策

・ 自主とう汰奨励金 6戸6頭（150.0%）

・ ワクチン接種 1戸108頭（54.0%）

・ 検査 1戸350頭

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：181,668千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数
牛5種混合（生）	17,832頭（95.5%）
牛5種混合（不活化）	4,104頭（108.6%）
牛6種混合（生・不活化）	7,167頭（94.6%）
牛6種混合（生）	3,738頭（96.4%）
牛へモフィルス	17,659頭（97.7%）
豚丹毒（生）	40,786頭（112.1%）
豚丹毒（不活化）	30,980頭（75.4%）

※ 括弧内は前年度対比

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
牛ヨネ病	20件（51.3%）	440千円（58.6%）
牛ウイルス性下痢	0件（0.0%）	-円（0.0%）
牛サルモネラ症	2件（100.0%）	764千円（150.3%）
合計	22件	1,204千円

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：80,959千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。

(1) 凍結精液等の供給

※ 括弧内は前年度対比

ア 凍結精液 92,652本（93.2%）

内訳：肉用牛 61,222本（96.3%）、乳用牛 31,430本（107.8%）

イ 受精卵 1,441個（146.4%）

内訳：肉用牛 1,427個（146.2%）、乳用牛 14個（175.0%）

ウ 液体窒素 53,072kg（100.4%）

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者を対象に事業の円滑かつ適正な実施を確保するとともに、家畜改良及び増殖を推進する目的として、会議を開催した。

事業推進会議 1回

(3) 供給精液及び受精卵の受胎状況調査

授精技術の検証及び受胎率の向上等を目的として、供給精液等の受胎状況調査を行った。

(4) 家畜改良に関する情報の提供等

家畜改良増殖関連2法の遵守徹底を図るための会議開催のほか、利用可能種雄牛、種雄牛遺伝能力、和牛子牛市場成績、枝肉成績、家畜改良に関する新技術などの各種情報を提供したに加え、群馬県内における肉用牛ゲノミック評価先進事例等の視察研修（参加者5名）を実施した。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：49,189千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

(1) 家畜登録等の件数

※ 括弧内は前年度対比

ア 乳用牛 9,683件 (95.5%)

内訳：血統登録4,849件、牛群審査1,351件、牛群検定成績証明864件、移動・その他2,619件

イ 豚 2,167件 (114.9%)

内訳：種豚登録724件、子豚登記918件、審査515件、農場認定ほか10件

(2) 事業推進

ア 家畜登録事業情報の提供

イ 登録委員等の委嘱・適正配置 委嘱15名・解嘱12名

ウ 登録担当者会議の開催 1回

エ 登録関係研修会への参加・派遣 会議4回、研修会2回34名

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：104千円]

生乳検査業務の廃止に伴い、検査機器の処分等の残務整理を行った。

4 その他事業4

(1) 研修事業

[独自：648千円]

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

ア 職員技術研修事業

研修会等への派遣 11名

イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

秋田県において開催 参加者数55名

(2) 畜産理解促進事業

[中畜委託：3,097千円、独自308千円]

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進し、併せて、地方競馬の活性化を支援した。

ア 地域畜産支援指導体制強化事業（畜産関係団体調整機能強化事業）

中央打合会及び管理責任者等研修会への参加

イ 岩手競馬支援特別対策事業（独自）

- ・ 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布
200個配布（10月・盛岡）
- ・ 冠レースでの会長賞授与
第24回若鮎賞（8月・盛岡）、第46回すずらん賞（8月・水沢）